

目 次

目
次

A. スポーツ外傷・障害総論

① スポーツ外傷とは.....	2	1. 軟部組織の修復.....	3
② スポーツ障害とは.....	2	2. 骨折の修復.....	4
③ 創傷治癒.....	3		

B. 体幹のスポーツ外傷・障害

① 頸部.....	6	d. 画像診断.....	26
1. 頸椎捻挫.....	6	e. 徒手的検査.....	26
a. 受傷機序.....	6	4. 鼠径部痛症候群.....	27
b. 病態.....	6	a. 鼠径周辺部の痛みに対する診断と 治療の歴史.....	27
c. 診断.....	7	b. 筆者らの経験.....	27
d. 治療.....	8	c. スポーツヘルニアの治療経験.....	28
e. 予防.....	8	d. スポーツヘルニア手術施行率の変 遷.....	29
f. 要旨.....	8	e. 現在の診断と治療方法.....	30
2. パーナー症候群.....	9	f. 筆者らが考える鼠径部痛症候群の 定義.....	30
a. ストレッチ損傷.....	9	g. 鑑別診断.....	31
b. 神経根圧迫損傷.....	9	h. 鼠径部痛症候群の発症要因.....	32
c. 腕神経叢の直接圧迫.....	9	i. 鼠径部痛症候群の診察と治療.....	33
d. 脊柱管狭窄による脊髄障害.....	10	j. cross motion の習得.....	36
3. 頸椎椎間板ヘルニア.....	10	k. 拘縮と筋力低下の終末像としての 坐骨部痛.....	36
a. 病態・発生機序.....	10	l. 鼠径部痛症候群に対するアスレ ティックリハビリテーションの基 本.....	36
b. 臨床症状・徒手的検査.....	12	m. 立位でスイングするアスレティック リハビリテーションの注意点.....	38
c. 画像診断.....	12	n. ランニング、キックなどの練習を 再開する基準.....	38
d. 治療方法.....	13	o. ランニング・キック動作の再教育	38
4. 頸部のその他の外傷・障害.....	14	p. スポーツ継続可能かどうかの判断 の基準.....	38
a. 脊椎・脊髄損傷.....	14	q. 痛みの発現のメカニズムについて	38
b. 頸髄症.....	19	r. 予防としてのトレーニング.....	38
② 腰・背部・骨盤.....	20	s. 鼠径部痛症候群の考え方に基づい て実施した保存療法の結果.....	39
1. 腰椎椎間板ヘルニア.....	20	t. 手術療法と保存療法の成績の比較	39
a. 病態.....	20	u. アスレティックリハビリテーショ	
b. 発生機転.....	20		
c. 診断方法.....	20		
d. 画像診断.....	21		
e. 徒手的検査.....	21		
2. 腰椎分離症.....	25		
a. 病態.....	25		
b. 発生機転.....	25		
c. 画像診断.....	25		
d. 徒手的検査.....	25		
3. 筋・筋膜性腰痛症.....	25		
a. 病態.....	25		
b. 発生機転.....	26		
c. 診断方法.....	26		

ンを行うまでの問題点	40		42
v. 各種手術療法が一定の有効性を示した理由について	40	a. 軟部組織由来の骨盤・股関節の痛み	43
w. 今後の展望	40	b. 骨/関節由来の骨盤・股関節の痛み	44
x. 要旨	40	c. その他の骨盤・股関節の痛み	47
5. 骨盤・股関節のその他の外傷・障害			

C. 上肢のスポーツ外傷・障害

① 肩部	49	c. 治療	63
1. 肩関節前方脱臼	49	3. 肘のその他の外傷・障害	65
a. 病態	49	[A] 離断性骨軟骨炎	65
b. 発生機転	49	a. 病態	65
c. 診断方法	50	b. 診断	65
d. 画像診断	50	c. 治療	66
e. 徒手的検査	50	[B] 変形性肘関節症	66
f. 治療	51	a. 病態	66
2. 肩腱板損傷	53	b. 診断	66
a. 発生機転と病態	53	c. 治療	66
b. 診断方法	53	[C] 尺骨神経障害	67
c. 画像診断	53	a. 病態	67
d. 徒手的検査	53	b. 診断	68
e. 治療	54	c. 治療	69
3. 肩鎖関節脱臼	54	③ 手・手指	70
a. 病態	54	1. 手関節捻挫	70
b. 発生機転	55	a. 手関節中央部に圧痛をきたす外傷	70
c. 診断方法	55	b. 手関節尺側部に圧痛をきたす外傷	73
d. 画像診断	56	c. 手関節橈側部に圧痛をきたす外傷	74
e. 徒手的検査	56	2. TFCC 損傷	74
f. 治療	56	a. 病態	74
4. 投球障害肩	56	b. 発生機転	75
a. 病態	56	c. 診断方法	75
b. 発生機転	57	d. 画像診断	75
c. 診断方法	57	3. 手指捻挫	77
d. 画像診断	57	a. 中手骨骨折	77
e. 治療	57	b. 指基節骨骨折	78
5. 肩のその他の外傷・障害	57	c. MP 関節脱臼	79
a. 肩関節唇損傷	57	d. PIP 関節脱臼骨折	79
b. 肩鎖関節症	57	4. 手・手指のその他の外傷・障害	80
② 肘関節	59	a. 骨折	80
1. 肘関節内側副靱帯 (MCL) 損傷	59	b. 腱の皮下断裂	82
a. 病態	59	c. キーンベック病	82
b. 診断	59	d. 紋扼性神経障害	83
c. 治療	60	e. 手指の血行障害	84
2. 上腕骨外側・内側上顆炎、滑膜ひだ障害	62		
a. 病態	62		
b. 診断	62		

D. 下肢のスポーツ外傷・障害

① 大腿部	85	d. 要旨	109
1. 大腿四頭筋肉ばなれ	85	5. 膝軟骨損傷	109
a. 肉ばなれとは?	85	a. 病態	109
b. 受傷機転	86	b. 診断	110
c. 診断	86	c. 治療	110
d. 画像診断	86	d. 要旨	110
e. 徒手検査	86	6. スポーツ障害での anterior knee pain	
f. 治療	87	111
2. 大腿ハムストリングス肉ばなれ	88	7. 反復性膝蓋骨脱臼・亜脱臼	111
a. ハムストリングスとは?	88	a. 病態, 発生機序	111
b. 受傷機転	88	b. 診断, 徒手検査法	111
c. 診断	89	c. 治療	112
d. 画像診断	89	8. 膝蓋腱炎(ジャンパー膝)	112
e. 徒手検査	91	a. 病態	112
f. 治療	91	b. 成因	112
3. 大腿部打撲	92	c. 診断と症状	113
a. 大腿部を打撲すると?	92	d. 治療	113
b. 受傷機転	92	9. Osgood-Schlatter 病	114
c. 診断	92	a. 成因	114
d. 画像診断	92	b. 病態	114
e. 徒手検査	94	c. 診断	115
f. 治療	94	10. 有痛性分裂膝蓋骨	115
g. 骨化性筋炎	95	a. 病態, 発生機序	115
4. 大腿部のその他の外傷・障害	95	b. 診断, 検査法	115
a. 大腿骨骨折	95	c. 治療	115
b. 大腿骨(骨幹部)疲労骨折	96	11. 腹脛靭帯炎	116
c. 骨化性筋炎	97	a. 成因, 病態	116
d. 股関節周辺の外傷・障害	98	b. 症状と診断	116
② 膝関節	101	c. 治療	116
1. 膝前十字靱帯(ACL)損傷	101	12. 鳩足炎	117
a. 病態	101	a. 成因, 病態	117
b. 診断	101	b. 診断	117
c. 治療	102	c. 治療	117
d. 要旨	103	13. 離断性骨軟骨炎	117
2. 膝後十字靱帯(PCL)損傷	104	a. 病態, 発生機序	117
a. 病態	104	b. 診断	117
b. 診断	104	c. 治療	118
c. 治療	104	14. 内側棚障害	118
d. 要旨	105	a. 成因, 病態	118
3. 膝内側副靱帯(MCL)損傷	106	b. 診断	118
a. 病態	106	c. 治療	118
b. 診断	106	③ 下腿部	119
c. 治療	106	1. 胫腹筋肉ばなれ	119
d. 要旨	107	a. 病態	119
4. 膝半月損傷	108	b. 発生機転	119
a. 病態	108	c. 診断方法	119
b. 診断	108	d. 画像診断	119
c. 治療	108	e. 徒手的検査	119

目

次

f. 応急処置	119
2. アキレス腱断裂	119
a. 病態	119
b. 発生機転	119
c. 診断方法	121
d. 画像診断	121
e. 徒手検査	122
f. 応急処置	122
g. 治療	122
3. 脊骨過労性骨障害	123
a. 病態	123
b. 発生機転	123
c. 診断方法	123
d. 画像診断	123
e. 徒手的検査	123
f. 治療およびリハビリテーション	125
g. 予防	125
4. 下腿疲労骨折	125
a. 病態	125
b. 年齢別発生頻度	125
c. 発生機転	126
d. 診断方法	126
e. 画像診断	127
f. 徒手的検査	128
g. 治療	128
5. コンパートメント症候群	128
a. 病態	128
b. 発生機転	128
c. 診断方法	129
d. 画像検査	129
e. 徒手検査	129
f. 処置・治療	129
④ 足・足関節	130
1. 足関節・足部捻挫	130
[A] 内がえし捻挫	130
a. 足関節外側靱帯損傷	130
b. 二分靱帯損傷	133
[B] 外がえし捻挫	133
a. 三角靱帯損傷	133
b. 脛腓靱帯損傷	134
c. 距骨下関節捻挫	135
d. 足根洞症候群	135
2. 扁平足障害	135
a. 外反扁平足	135
b. 腓骨筋症直性扁平足	137
c. 足根骨癒合症	137
3. 疲労骨折	139
4. 過剰骨・種子骨障害	143
a. 三角骨	143
b. 外脛骨	145
c. os peroneum	146
d. os subfibulare	147
e. os subtibiale	147
f. 種子骨障害	147
5. 衝突性外骨腫	148
6. 足・足関節のその他の外傷・障害	149
a. 距骨離断性骨軟骨炎	149
b. リスフラン靱帯損傷	152
c. 腓骨筋腱脱臼	153
d. 足根管症候群	153
e. 外反母趾	154
f. 跖骨痛	154
g. pump-bump 病	154
h. 骨端症	155

E. 重篤な外傷

① 頭蓋骨骨折	157
1. 頭部挫創(皮膚・筋肉などの損傷)	157
a. 特徴	157
b. 初期治療	157
c. フィールドへの復帰	157
d. 試合後の管理	157
2. 頭蓋骨骨折	158
a. 分類	158
b. 診断と症状	158
c. 続発症としての急性硬膜外血腫	158
d. 現場での対応	159
e. 復帰に関して	159
② 脳損傷	160
1. 脳損傷の分類	160
2. 脳挫傷とは	160
3. 急性硬膜下血腫とは	160
4. 現場での対応	161
5. 復帰の問題	162
③ 脳振とう	163
1. 脳振とうとは	163
2. 機序	163
3. 脳振とうの頻度	163
4. フィールドからサイドラインへ	164
5. 脳振とうのサイドラインでの診断・評価	164
6. 初期治療のポイント	164
7. 試合後の観察	164
8. 脳振とうを繰り返すとどうなるか?	
a. 受傷直後から何十日か単位での問	164

題	165
b. 慢性的な繰り返し損傷	165
9. 試合への復帰のガイドライン	165
10. 予防対策	166
④ 脊髄損傷	167
1. 脊髄損傷とは?	167
2. 各スポーツなどでの受傷の報告	167
a. アメリカンフットボール	167
b. ラグビー	167
c. 他のスポーツ	167
3. 脊髄損傷の発生機序	167
4. 脊髄損傷の症状	168
5. 頸椎損傷の画像診断	168
6. 現場での対応	169
7. 予防	169
8. 復帰の問題	169
⑤ 胸腹部外傷	170
1. 胸部外傷	170
a. 胸部の解剖	170
b. 胸部外傷の症状	170
c. 胸部外傷の診断	170
d. 代表的な胸部外傷	170
2. 腹部外傷	172
a. 腹部の解剖	172
b. 腹部外傷の症状	172
c. 腹部外傷の診断	172
⑥ 大出血	173
1. ショックとは	173
2. 外傷で発生するショック	173
3. 出血性ショック	174
4. 外出血に対する処置	174
止血法	174
5. 内出血に対する処置	176
a. ショック体位	176
b. その他	176

目

次

F. その他の外傷

① 顔面	177
1. 軟部組織	177
a. 原因	177
b. 診断: 顔面外傷の診断治療原則	177
c. 治療	178
d. 予防	178
2. 顔面骨骨折 (額部陥没骨折・鼻骨骨折・頬骨骨折・下顎骨骨折・吹き抜け骨折・上顎骨骨折など)	178
a. 原因	178
b. 症状	178
c. 診断	179
d. 治療	180
e. 予防	180
② 目	181
a. 原因	181
b. 症状	182
c. 診断	182
d. 治療	182
e. 予防	183
③ 鼻	184
a. 原因	184
b. 症状	184
c. 診断	184
1. 鼻出血	184
2. 鼻骨骨折や鼻中隔骨折	186
a. 原因	186
b. 症状	186
c. 治療	186
d. 予防	186
④ 耳	188
1. 外耳の損傷	188
a. 原因	188
b. 症状	188
c. 診断	188
d. 治療	188
e. 予防	188
2. 中耳の損傷	189
3. 中耳炎	189
a. 原因	189
b. 症状	189
c. 診断	189
d. 治療	189
4. 内耳の損傷	189
a. 原因	189
b. 症状	189
c. 診断	189
d. 治療	189
e. 予防	189
5. 迷路振とう症 (めまい・耳鳴り)	189
a. 原因	190
b. 症状	190
c. 診断	190
d. 治療・スポーツへの復帰	190

6. 側頭骨骨折	190	処置	194
治療	190	g. 競技への復帰時期	195
⑤ 歯	191	4. 外傷の予防	195
1. なぜ、歯が大事？	191	a. マウスガードの効果	195
2. 歯と歯周組織の構造	191	b. マウスガードの種類	195
3. 口腔領域の外傷	191	5. 外傷後の処置：歯を喪失したら？	196
a. 口唇、頬粘膜、舌の裂傷	192	a. 歯を喪失した場合の治療法	196
b. 歯の打撲・破折	192	b. デンタルインプラントの術式	196
c. 歯の脱臼	192	c. デンタルインプラントの利点と欠	
d. 骨折	194	点	197
e. 頚関節脱臼	194	6. 付録：歯の痛みの原因とその対策	198
f. 口腔領域の外傷に対する現場での			

G. 年齢・性別による特徴

① 女性に特徴的なスポーツ外傷・障害	199	a. 上腕骨近位骨端線離開	205
1. スポーツ外傷・障害の男女差にかかる女性の骨格の特徴	199	b. 野球肘	205
2. 女性の身体組成の特徴	199	c. オスグッド病（Osgood-Schlatter病）	205
3. 女性の内分泌状態とスポーツ外傷・障害	200	d. シーバーSever病	206
4. 女性に特有のスポーツ外傷・障害	200	e. その他の骨端症	206
a. アライメントの差に関連する損傷	200	3. 骨端核裂離骨折	206
b. 関節弛緩性に関連する外傷・障害	202	4. 離断性骨軟骨炎	206
c. 骨強度に関連する外傷・障害：疲労骨折	202	5. 過剰骨による障害など	207
d. 複合要素による外傷	203	③ 高齢者に特徴的なスポーツ外傷・障害	209
② 成長期に特徴的なスポーツ外傷・障害	204	1. 高齢者の運動器の特徴	209
1. 成長期の運動器の特徴	204	2. 高齢者の骨の損傷	209
2. 骨端症	205	3. 高齢者の膝関節痛	211
		4. 高齢者の腰痛、腰椎疾患	211
		5. 中・高齢者の筋、腱の外傷	211
		6. 高齢者の頭・頸部外傷	212

H. スポーツ整形外科的メディカルチェック

① スポーツ整形外科的メディカルチェックの概要	213	c. 診察	214
② スポーツ整形外科的メディカルチェックの実際	213	d. まとめとアドバイス	214
a. スポーツ整形外科的メディカルチェック	213	e. 結果のフィードバック	215
b. 問診	214	③ スポーツ整形外科的メディカルチェックとアスレティックトレーナーとのかかわり	215

索引 219